

神谷登茂子 かみやのぶこ 劇作家。大正元年十一月十一日神奈川縣鎌倉市生れ、昭和十九年二月十九日歿（一九二一四）。神奈川縣立横濱第一高等女學校を経て、昭和八年實踐女子專門學校國文本科卒、次いで選科卒。のうち母校横濱第一高女等で教職。徹く劇作に興味を有ち、額田六福に師事してその主宰誌「舞臺」に、作品「殘黨」（第六卷五月號）、「崖」（第八卷五月號）、「雨の宵宮」（第九卷二月號）等を發表。また師を中心にしての東京劇作會に入りて幹事を務め、歿するまゝに二十餘篇を書いた。

「幕物」「餘瀝」等四篇の他、年譜、追悼集（川村花菱、北林透馬、岡田八千代、額田六福等執筆）を収めた、「山椿―神谷登茂子記念」（昭和十九年九月―二十日神奈川・神谷志津刊）がある。

